

第158回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成30年8月

◆日時: 2018年8月23日(木) 13:00-15:30

◆会場: ①講演: 桜木町びおシティ6階 研修室 ②見学: 横浜みなと博物館 (みなとみらい地区)

◆主催: 防災塾・だるま

司会: 高松清美

記録: 中島光明

◆談義の会参加者: 会員 20名、一般3名(含む講師)、計 23名 (敬称略)



講師の三木氏

話題: 防災講演『**関東大震災と横浜港**』と
横浜みなと博物館・帆船日本丸の見学

講師: 三木 綾氏 (横浜みなと博物館 学芸員)

荏本塾長の挨拶



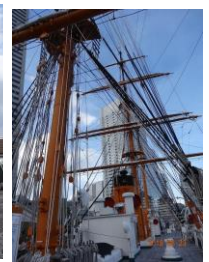
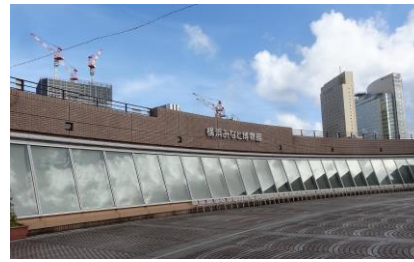
- 横浜港の歴史、関東大震災による被害、地震からの復旧・復興を解説いただき、現在に至る横浜市の発展を知る貴重な機会となりました。
- JR桜木町駅の間近にある「横浜みなと博物館」には、横浜市の貴重な歴史的資産が管理されていることを知ることができました。
- 歴史的資産の保管が海面下であるため、超ど級の自然災害(津波や高潮による浸水)による被害が危惧されます。

歴史の概要:

- ◇1859(安政6年): 横浜開港(日米修好通商条約)
- ◇1917(大正6年): 新港ふ頭の完成(鉄道の敷設、クレーン・上屋・倉庫の設置)
- ◇1920(大正9年): 近代化港湾(大棧橋、新港ふ頭、防波堤、泊地)
- ◇1923(大正12年): **関東大震災が発生**
(埋立地の脆弱な地盤上の建物が倒壊し、大規模な火災が発生)
- ◇1930(昭和5年): 完全復旧
- ◇1934(昭和9年): 第3期築港工事で修築
(山内ふ頭、高嶋ふ頭、瑞穂ふ頭)

関東大震災(M7.2):

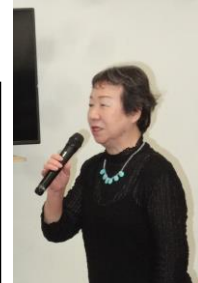
- 横浜市の被害: 推定被害世帯数 98,900 戸 (被害世帯率 95%)、り災者総数 412,896 人 (総人口の 92.5%)
- 震災発生時に停泊していた船舶: 50~100 船
- 被災者を救助し避難輸送: 2,000 人(仏船)、1,800 人(大阪商船)、4,000 人(日本郵船)、他
- 横浜港への救援物資: 9/3~9/7 間に 23 船 (白米など主食品、副食品、調味料、飲料水他)
- 全国へ避難する被災者: 9/2~9/6 の間に 21 船 (大阪、神戸、名古屋、清水、江尻)



写真(左から): 講演の様、みなと博物館、帆船日本丸、司会の高松さん(下方)

関東大震災が横浜港にもたらしたもの

- 横浜港が独占していた生糸輸出が神戸港との2港体制に
- 復旧工事完成後の1930年代は外国航路の貨客船が多数入港し、華やかな時代に
- 横浜港の内国貿易取扱の減少が、1941(昭和16年)の東京港開港の遠因に
- 震災のガレキの捨て場の一つを緑地化し、1930(昭和5年)山下公園を造成し、1935(昭和10年)「復興記念横浜大博覧会」を開催



メモ: 見学した日本丸に、参加者が現役時代考案された船舶用機器が設置されていました。



●次回(第159回)案内

- 日時: 2018年9月28日(金) 18時~19時30分
- 会場: 神奈川大学24号館310号室
- テーマ: 「**気象災害クロスロードの体験**」 田中栄治氏(小田原の防災を考える会 防災塾・だるま)